

会 議 録				
平成 19 年度第 4 回 社会教育委員の会議	日 時	平成 19 年 7 月 23 日 (月) 午後 2 時 00 分～4 時 00 分	場 所	小金井市役所第二庁舎 801 会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出 席 者	委 員	福島議長、彦坂副議長、井土、君塚、兼森、武田、田中、藤川、堀井各 委員		
	その他	(欠席) 田尻委員		
	事務局	石川生涯学習部長、伊藤生涯学習課長、林スポーツ振興課長、田中図書 館長、中嶋公民館長 木村生涯学習係主事、		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	1 人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 報告事項				
(1) 平成 19 年度都市社連協第 1 回理事会の報告について				
(2) 平成 19 年度都市社連協第 5 ブロック代表者会議について				
(3) 「小金井市地域教育会議—市民が提案する設立と運営への指針 (提言)」 について				
(4) 地域参加講座について				
(5) スポーツ振興課事業について				
(6) 共同利用図書館の検討について				
(7) 公民館企画実行委員の選任について				
(8) その他				
2. 協議事項				
(1) 社会教育委員の会議の申し送り事項				
(2) その他				
1. 報告事項				
(1) 平成 19 年度都市社連協第 1 回理事会の報告について (福島委員)				
平成 19 年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会の第 1 回理事会が 7 月 13 日の 午後 3 時から、東大和市中央公民館ホールで開催された。今年度は東大和市が会長市 となる。平成 19 年度の都市社連協の今後の事業日程について、大きなものとしては ブロック研修会が 9 月から 10 月くらい、交流大会が 11 月 17 日、第 2 回理事会が 3 月 7 日、平成 20 年度の定期総会が 4 月 19 日に開催される予定。ブロック研修会				

については平成19年度第5ブロック幹事市の調布市にて開催されるが、その他のものは会長市の東大和で開催される予定である。今年度の関東甲信越静社会教育研究大会については、9月に静岡県熱海市で開催される。平成20年度は関東甲信越静社会教育研究大会と全国社会教育研究大会が長野県にて同時開催される。

(2) 平成19年度都市社連協第5ブロック代表者会議について
(福島委員)

7月26日に第5ブロック代表者会議が調布市にて行われる。平成19年度第5ブロック研修会は、10月20日(土)に調布市文化会館たづくりで開催される予定であるが、時間や研修テーマについては現時点では未定である。代表者会議の中で、詳細について決定する予定なので、代表者会議出席後にまた改めて報告したい。

(3) 「小金井市地域教育会議—市民が提案する設立と運営への指針(提言)」について
[君塚委員により、文案の読み上げがあった後、最終的な提言の確認作業を行った。]
(君塚委員)

藤川委員が作成してくださった別紙の地域教育会議イメージ図が、15ページの第4ステップに記されているプロジェクトチームに対応するものである。機関車の図になっており、この機関車が順調に進むと「小金井市生涯学習センター」の駅が見えてくるという構図になっている。この指針は、その先に地域教育の推進と地域社会作りを有機的に進めていくことを見据えているので、動輪として行政と学校の協力、市民の参画がある。汽車の原動となる人材バンクが存在し、その人材バンクに石炭を供給するのが市民の参画ということになる。さらに、この人事バンクが実質的にはどういったことをやるのかというのを実際に動かしていくのが、学校ごとの作業部会になる。人材バンクが燃料切れを起こさなければ、この汽車はずっと進んでいくという図になっている。

(武田委員)

これだけ大きな視野に立った提言が作成されたことはすばらしい。これが実現していけば、他に類を見ない小金井市の誇れるものになっていくだろう。皆さんの力でぜひともこの提言の実現をめざしたい。

(彦坂委員)

学校5日制が始まってから、これまで長い間それに対する対策が実現しなかったが、ここでこれらの問題に対する具体案が出てきたというのは非常によかった。小金井独自の教育力を活かした提言になるのではないかな。

14ページ上から3段落目の「地域教育会議」立ち上げについて標記されている部分については教育委員会との係わり方について、「協力・支援」という表現が使われているが、もっと強く打ち出してもよいのではないか。

(田中委員)

教育委員会との繋がり・係わりについては必要不可欠なものではあるが、今回はこちらから「提言」というかたちで教育委員会に提案・要望するものであるので、あまり強い表現を前面に出すよりは、それに対して支援・協力をして欲しいという標記のほうが望ましいのではないか。

(堀井委員)

あえて強く言うとしたら「参画」等の表現になるのかと思うが、イメージ図の中に事務局として「教育委員会」と入っているので係わり方については分かると思う。

その他、前回までの小委員会で校正された部分が反映されているかの確認、誤字脱字・句読点や語句の修正・統一等の最終確認と校正を行った。

(4) 地域参加講座について

(伊藤生涯学習課長)

平成19年度地域参加のための講座(前期)が6月30日に終了した。5月12日から始まり、毎週土曜日に開催してきた。講座7回と、最終週に地域参加のための出会いパーティーを開催し、全8回を終了した。参加者数は延べ210人。1回あたりの平均出席者数は26人であった。前回までより参加者も増えており、水曜日の夜の開催よりも土曜日のほうが参加しやすいのではないか。参加者からも好評であったので、秋に行う予定の後期講座についても引き続き土曜日に開催したい。

(5) スポーツ振興課事業について

(林スポーツ振興課長)

5月11日から7月6日の毎週金曜日全9回の日程で平成19年度いきいき健康スポーツ教室を行った。4月15日号の市報等で募集し、定員30人のところ26人の応募があり延べ参加人数は153人となった。

(6) 共同利用図書館の検討について

(田中図書館長)

現在、小金井市の図書館は42万冊の所蔵があるが、収蔵能力を遥かに超えており、書架に本が溢れている状況が続いている。2002年度に実施した、多摩地域の書庫容量に関する調査によれば、各自治体・都立図書館等でも所蔵スペースが不足しており、こうした状況の中、保存資料の活用方策の確立に向け、共同利用図書館の検討がされている。平成15年に多摩地域図書館サービス研究会から、都市町村立図書館の

除籍資料をどう活用するか、今後のあり方の提言が図書館長協議会に出された。これを受け、除籍資料再活用プロジェクトチームを発足し、平成18年2月、多摩地域共同利用図書館設置に向けての報告書が提出され、この報告を受け、図書館長協議会では平成18年10月に幹事館のメンバーにより、共同利用図書館検討委員会を設置し、検討してきた。この間に市長会の助成制度が創設されたため、多摩地域の共同利用図書館にこの助成制度を利用することとし、助成金の交付申請を行った。

今後この助成金を活用してコンサルタント会社に委託して、共同利用図書館の具体的な可能性について調査を実施し、その結果を踏まえ、検討していきたい。

(7) 公民館企画実行委員の選任について

(中嶋公民館長)

7月10日の第7回教育委員会定例会に、「第19期小金井市公民館企画実行委員の選任について」議案を提出し、原案のとおり可決された。企画実行委員の名簿については、委嘱状の伝達及び公民館運営審議会で配付の後、次回の会議で社会教育委員に配布したい。追加委嘱する委員の概要については、男性3人、女性3人、平均年齢65歳（男性平均66歳、女性平均64歳）。立候補が4人、推薦団体は2人となっている。今回の6人を含めた全館の委員30人では、女性15人、男性15人、平均年齢64歳（男性平均67歳、女性平均61歳）、最高年齢は女性で79歳、最少年齢は女性で39歳。立候補は25人、推薦団体は5人となり、新任は25人、再任は2期で5人となっている。

(8) その他

- ・プール還水槽破損事故について

(林スポーツ振興課長)

発生日時は平成19年7月3日午後9時55分頃。事故により、通常の濾過運転ができなくなった。このため、7月4日はプールの運転を1日休止した。今後の対応について協議したが、7月5日からは衛生・安全面を確認し、還水槽を使用しないで循環・濾過するという形がとれたので、プールの運転休止は1日のみとなり、7月5日からは営業を再開した。ただ、プールから溢れた水の行き場がなくならないように、水位を10cm程度下げ、ポンプで吸い上げるだけの形で対応できるようにした。これにより、いつもより浮遊物が流れにくくなることから、水の取り替える量が通常より増し、これらの運転期間中は水道料金に関しては増加することが予想される。対応については、現在業者が調査中。

(藤川委員)

それらの対応について市民の反応はどうか。

(林スポーツ振興課長)

水位が低いため、いつもより泳ぎにくいという声や、浮遊物に対して排水して水を補充することと網ですくうことで対処しているため、若干汚れが気になるという声もあったが、通常通りの営業が行えている。

- ・青少年のための科学の祭典について

(藤川委員)

小金井市と小金井市教育委員会にも共催してもらい、9月9日に科学の祭典を開催する。ぜひご参加ください。

(石川生涯学習部長)

市と教育委員会も共催ということで、8月15日号及び9月1日号の市報2回にわたり、科学の祭典のPRをさせていただいた。

- ・公民館「事業のまとめ」について

(中嶋公民館長)

平成18年度の「事業のまとめ」を作成し、配付した。ご覧になっていただきたい。

2. 協議事項

(1) 社会教育委員の会議の申し送り事項

(彦坂委員)

今期の小委員会の実績もあるので今後への継続を望む。

(堀井委員)

昨年の9月7日に関東甲信越社会教育研究大会に参加し、とても勉強になった。社会教育生涯学習研究者の三浦先生による基調講演があったが、その中で「20世紀の生涯学習プログラムとの決別」というところで、生涯学習プログラムの多くが趣味や教養・軽スポーツになっており、社会に還元できるものになりきれていない、という話があった。これは、行政が生涯学習プログラムとして取り扱う上では考えていくべき点かと思う。小金井市のコミュニティースクール等についても来年度検証していただけるとよい。

社会教育委員の会議というのは、社会教育の課題に対して意見を述べたり、検証したり提言する、というものだろうと思うので、報告を受けてうなずくだけでなく、ひとつひとつの事項について深く議論する必要があるのではないかと。言いつ放しになってしまうのではなく、時には議論のテーマを決めて、短時間でもよいので自由な討論ができるとよい。

小金井市民の高いポテンシャルを維持していくことも大切である。ここがそれをサポートできる場ではないか。来期の委員の方にはそのあたりも含めて、頑張ってください。

(藤川委員)

小委員会のメンバーとなり、みなさんと協同して提言を出せたことがよかった。来期の委員には今回の提言を実施に向けた第一歩を踏み出していただきたい。

(田中委員)

自分の子どもも小中学校を卒業すると、同じ市民でありながら熱意が欠けるようなところがあったような気がする。今期は、新しい提言の作成にも関わることができたので、次期はこの提言に沿ってうまく軌道に乗るようにしていきたい。

(武田委員)

P T A活動を通して見えてきたことがある。週休2日制になるにあたって、子どもたちの居場所の確保の問題、登下校の際の子どもたちの安全・安心の問題等について考えさせられてきたところへ、P T Aや健全育成・地域・学校・行政等を包括する形でこの提言ができた。ぜひ次期の委員にも、この提言を一步でも二歩でも前へ進めて欲しい。今回委員を退任される方についても、今後もサポートをお願いしたい。

(君塚委員)

6年間の任期の中で、2つの提言の取りまとめに関わることができ、小金井市の市民の活動や意識のポテンシャルの高さを実感した。今回の提言も、市民のポテンシャルの高さが十分に発揮されたものになったのではないか。行政には市民一人ひとりの力をぜひ活かすようなかたちで、共に働きながら提言を実現してほしい。

社会教育や生涯学習として取り上げていくことの中身も重要になってくる。悲惨な事件や地域社会の変容や教育政策の変換期となっている。今回、この提言により枠組みは作れたが、ここから先が重要である。連携やネットワークについても言葉だけでなく、共に考え、実現させていきたい。

(兼森委員)

地域の教育力を掘り起こし活性化して、子どもたちの育ちを支えていこうという点が提言をつくっていく中で大きな理念となった。23期において、15年に出した提言についてどう考えるかということからスタートとし、2年間一緒に勉強しつつここまでできたというのは、小金井市はお金がないだけに知恵を絞るチャンスに恵まれていたのではないか。市民の力を活かしていかなければいけないというのは、市民にとっても行政にとってもチャンスだろう。いろいろな方々のお力を頂きながら、ぜひそれを活かして欲しい。青少年問題協議会でも、地域の教育力を活かし健やかな子どもを育てようという報告も出ている。思いは繋がってきていると感じるので今後に期待したい。

(井土委員)

今期の委員によって「地域教育会議」というひとつの教科書が残された。皆さんに残していただいた教科書を基に、次期には一つでも二つでも前に進めることができるよう努力していきたい。今後のご指導をお願いしたい。

(福島委員)

皆さんの知恵と力で作り上げ、協力の下にできたこの提言を、ひとつの軸としてもらい、すぐにとはいかなくても一つ一つ進めていっていただきたい。

(石川生涯学習部長)

今回作成していただいた提言を受け、今後生涯学習の分野を中心に取り組んでいくことになるが、私たちだけでは実現できない。学校教育部や地域の方たちと連携しながら進めていくこととなる。小さな政府を…という流れの中で市民の皆さんの力を借りながら、小金井の教育をますます発展させ、住んでよかったと言われるまちづくりを進めていきたい。小金井の環境の良さ・市民のポテンシャルの高さを活かし、より良い教育行政を実現させていきたい。小金井の教育がますます発展するよう、お力をお借りしたい。これまでのご活躍に感謝申し上げますと共に、今後のご指導・ご協力を何卒よろしくお願い致します。

以 上